

寛永諸家譜

清和源氏癸七冊之内
支流

61

内閣文庫			
番號	和	20199	
冊數	186(61)		
函號	持	76	1



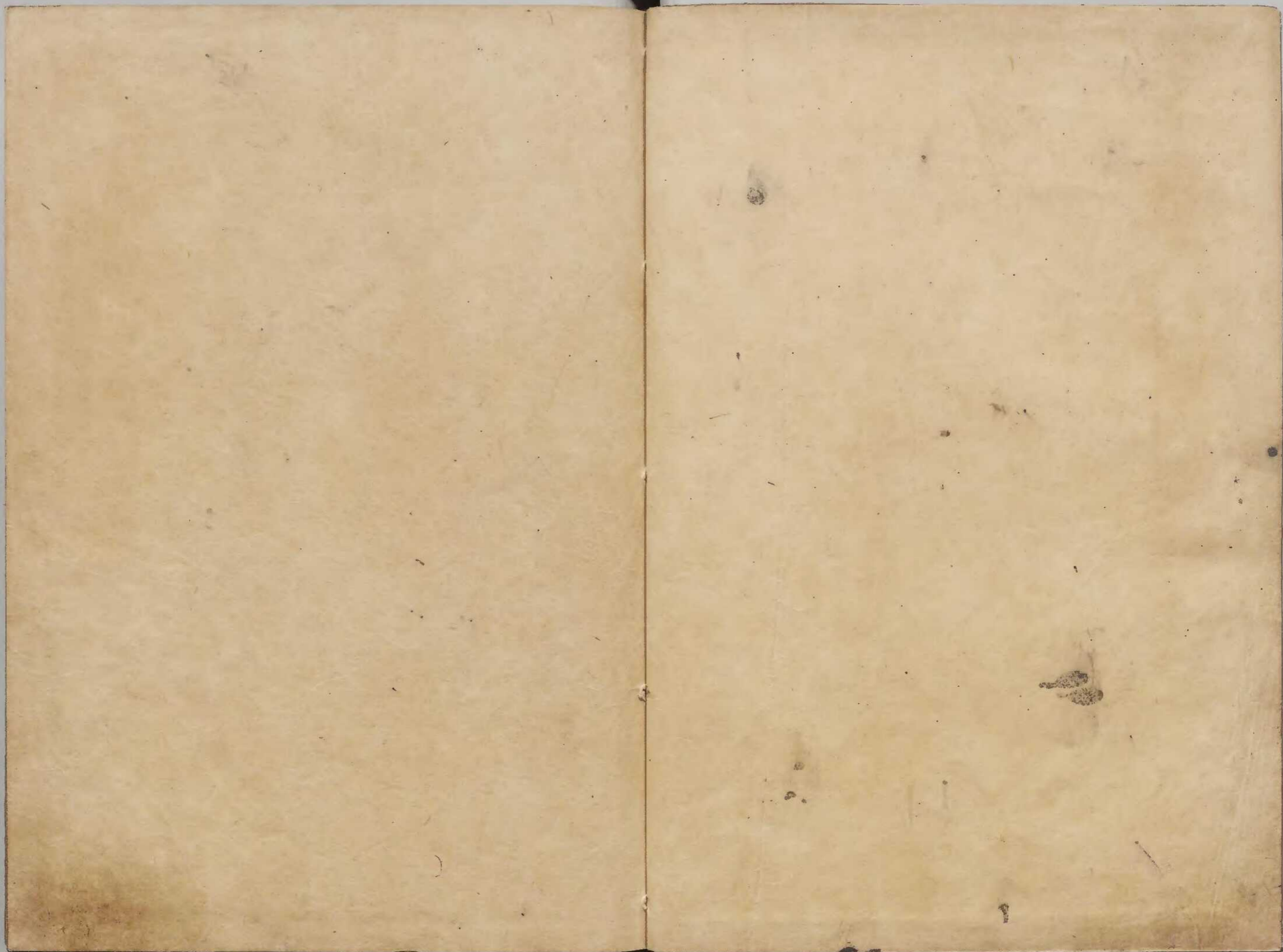
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak





市尾	高付	菱波	小村	分部
留田	小田切	原	小川	小侯

寛永諸家系圖傳

清和源氏 卷六

交流

分部

代々
代々 堀別
堀別 ありて
ありて 長野大守
長野大守
不属正

● 克定

若狭守 生國堀別

淺草文庫

安濃郡長野村分郡乃城ノ石位
七十五歳少ク病死月心自得号ス

之恒

与らる安濃郡甘國同家
位同家四十一歳少ク病死 月心
淨氣と号ス

之高

左京亮 甘國同家
神戸城ノ后位豊満大和守ノ女
をめ

永祿之ニ任得此國府市場口合戦
時之高軍功トシテ 疾トシテ
故長野中乃藤定ノ感状ヲ有定
死ノ後子アリシカレテ 之高信長
爲リテ 織田ト野ノ介信也トシテ
長野此城主トス

同十年二月十六日伊豫多勢北國司
少田國一志郡羽野少く合戦乃時
克高討死桃谷浄源こそ号りて

克嘉

左京亮 生國同家

實ハ細野伴五守が子なり克高子
なりきしゆりー克高が妹を克嘉なり
嫁し家督つづし羽野合戦乃

時克嘉十六歳少く軍功とるげま
二ヶふ乃成とつゆふゆつり克高
が治つといく織田信包より居るうめら
出丸郡中山村乃城より住む其後
同郡占村乃城とまづつり居信と
天正九年伴家境に敵乃在軍をい
小伊賀國古佛乃城を又惣別松嶋乃
合戦よりつてしき切あり事と畠田
た進け由守即た出の秀吉へ言ふと

之勝

中務 坂川 安藤 郡 中山 村 小 守
織田 信 包 改 易 乃 後 秀 吉 乃 一 子
馬 廻 乃 役 之 所 也 二 十 九 歳 乃 病 死
昌 宏 信 之 子 也

之信

大 系 亮 中 國 坂 川 安 濃 郡 中 務 村

實 乃 長 時 次 乃 弟 正 勝 乃 子 也 之 嘉
乃 嫡 子 之 勝 早 世 以 之 信 之 子 也
て 子 あり ず

慶 長 五 年 坂 川 乃 城 合 戦 乃 也
之 信 十 歳 乃 時 人 質 之 也 田
信 濃 守 乃 子 也

同 六 年

大 於 現 大 坂 西 北 凡 一 沙 彦 乃 時 彦 也
之 嘉 乃 子 也 乃 子 也 乃 子 也

同十一年十一月廿九日光嘉病死時
光信江戸より参りしき光嘉が遺跡
とあり

同七年三月絶目乃涉礼とあり

同八年二条乃涉城涉菅信とあり

同九年六月廿二日

大権現乃命小より伏見小ありとあり

同十一年駿府より同儀す

同十一年作和山北城涉菅信とあり

同十二年駿府涉城涉本丸乃涉菅信
をり

同十四年洛陽初恩院造管此時奉行
あり

あり

大坂東涉博より本多氏濃守紹ありとあり

一六十余乃首と封補とありとあり

寛永元年大坂涉本丸乃涉菅信とあり

あり

同二年二条乃城一行幸ありとあり

將軍家涉しひとくく沙糸内此侍
人列

同五年右後二乃丸南うとぐふ此
涉常

同十年

乃軍家乃命あり出羽奥州相前常陸

國と巡検寸

同十一年比叔山涉道管乃町奉行

いありて七年乃召小遣畢寸

女子

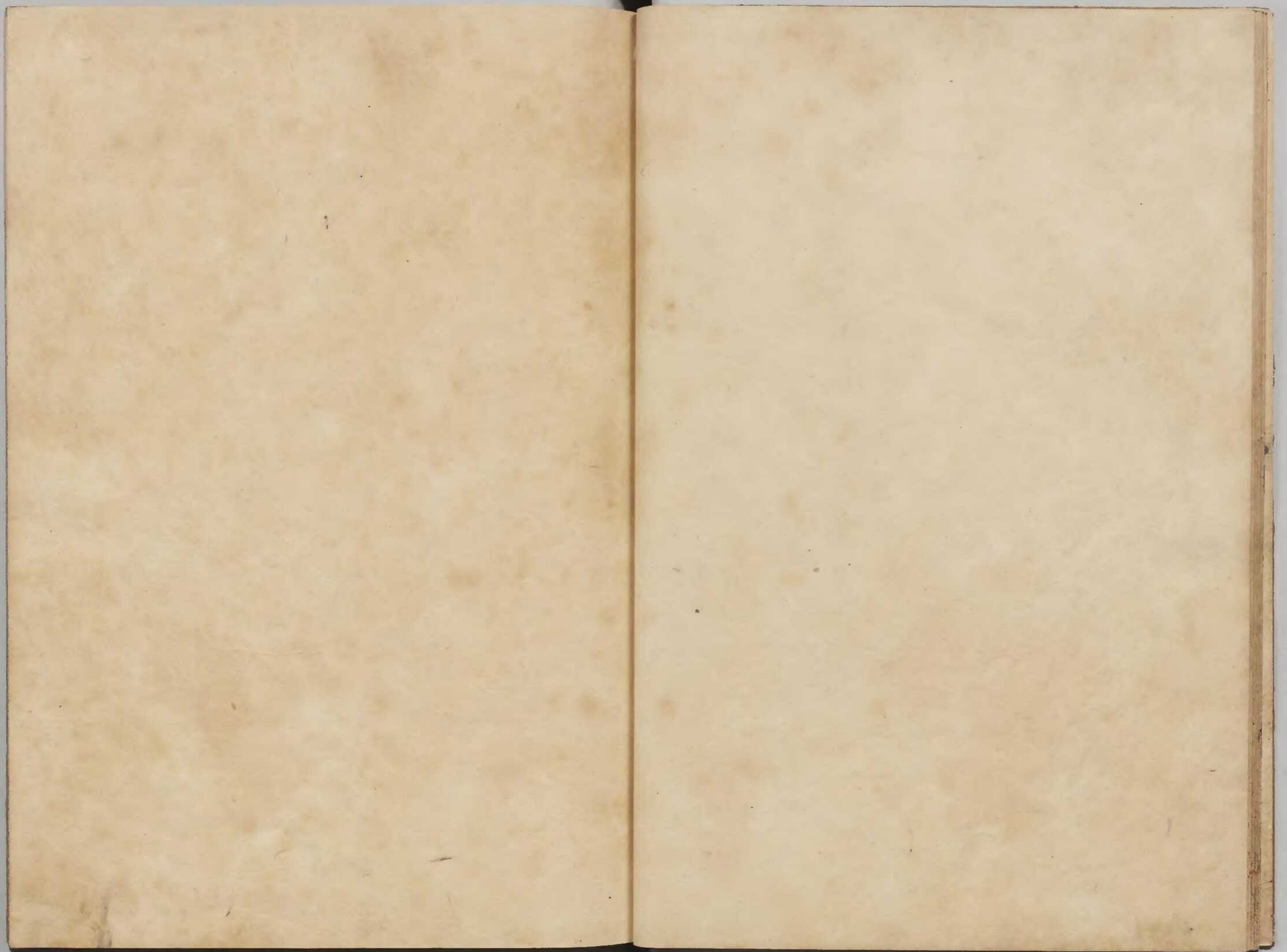
大同二年守基 母、渡邊孫左衛門 女

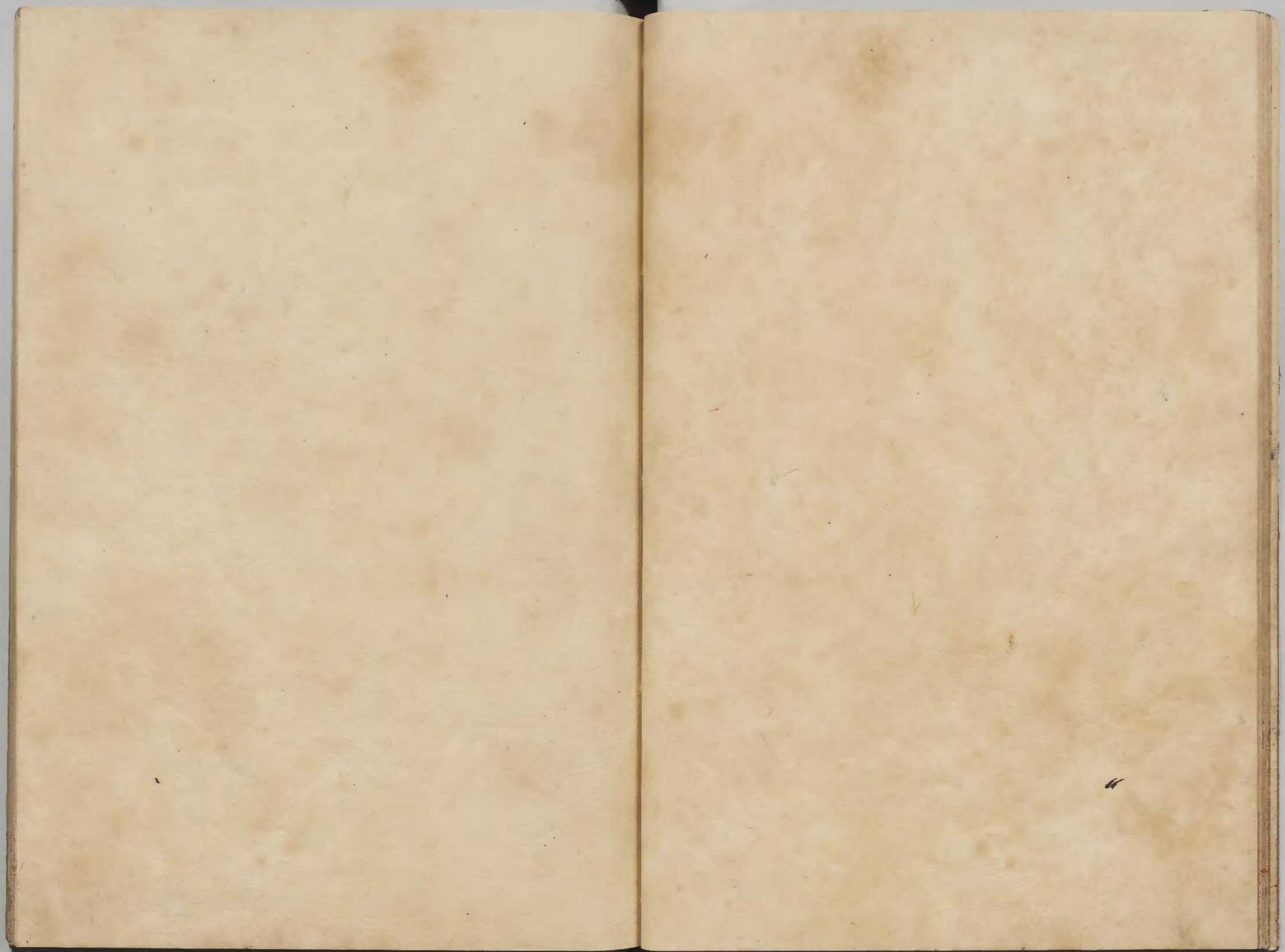
之卿

徳久 生國典別

母、海井 稚兼頭妹

家紋丸乃うろふ云列





事

恒川 遠江
生國尾川 河内郡 榎村
法名 蓮秋
藤原氏乃
家紋 靱菱

廣勝

長野 信介
幼少 織田 与 信色
了 了 瑞川

正勝

長野 此家 与 恒川 与 信色
信介 恒川 与 信色
信介 恒川 与 信色
信介 恒川 与 信色
信介 恒川 与 信色

長野 恒川 与 信色
分部 恒川 与 信色

之信

織田と雖も信包の小治の信包の改易乃
後秀吉の小治の馬の入の信包
正勝の幼の多の病の故の在の前の
筆の存の寸

寛永十年死の信包の体の

分部の系亮

外祖の父の嘉の春の子のらのれのる

政重

平内丸通

出國と別

安中集

小侯

克祖為宗小侯
其後与所小侯小侯守り
有角と稱す
有角と稱す

政信

平内

生國同家

武田氏よりけりて駿河甲斐に城を

もちよき其後ありていよありて

大権現一より出山致

政勝

平右衛門

大権現

台徳院殿へつてをまゝきりて

尊長十二年正月十九日 年十二歳

小く病死 法名元真

政利

台左衛門

生國孫男

大権現

台徳院殿

將軍家一ノ一ノ一

政輝

台平

生國

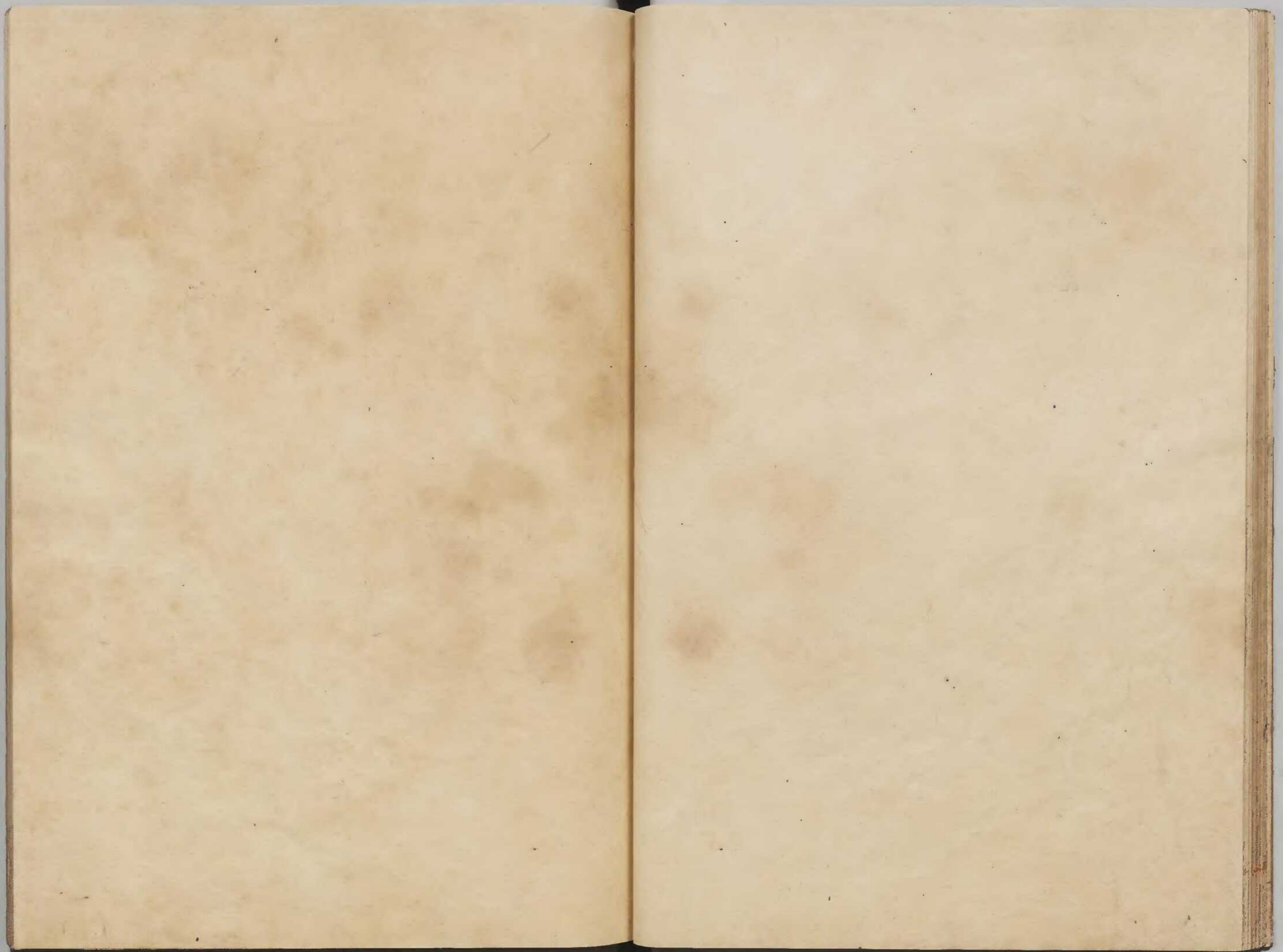
政貞

平右衛門

生國

將軍家一ノ一ノ一

家紋 凡乃内ノ一ノ一乃鷹羽一



● 家晴

後前守

永祿元年五月九日六十二歳歿

死

法名淨圓

千村

先祖下總國沼田より出たり

家政

掃部助

廣長十三年六月廿八十二歳

法名宗秋

良重

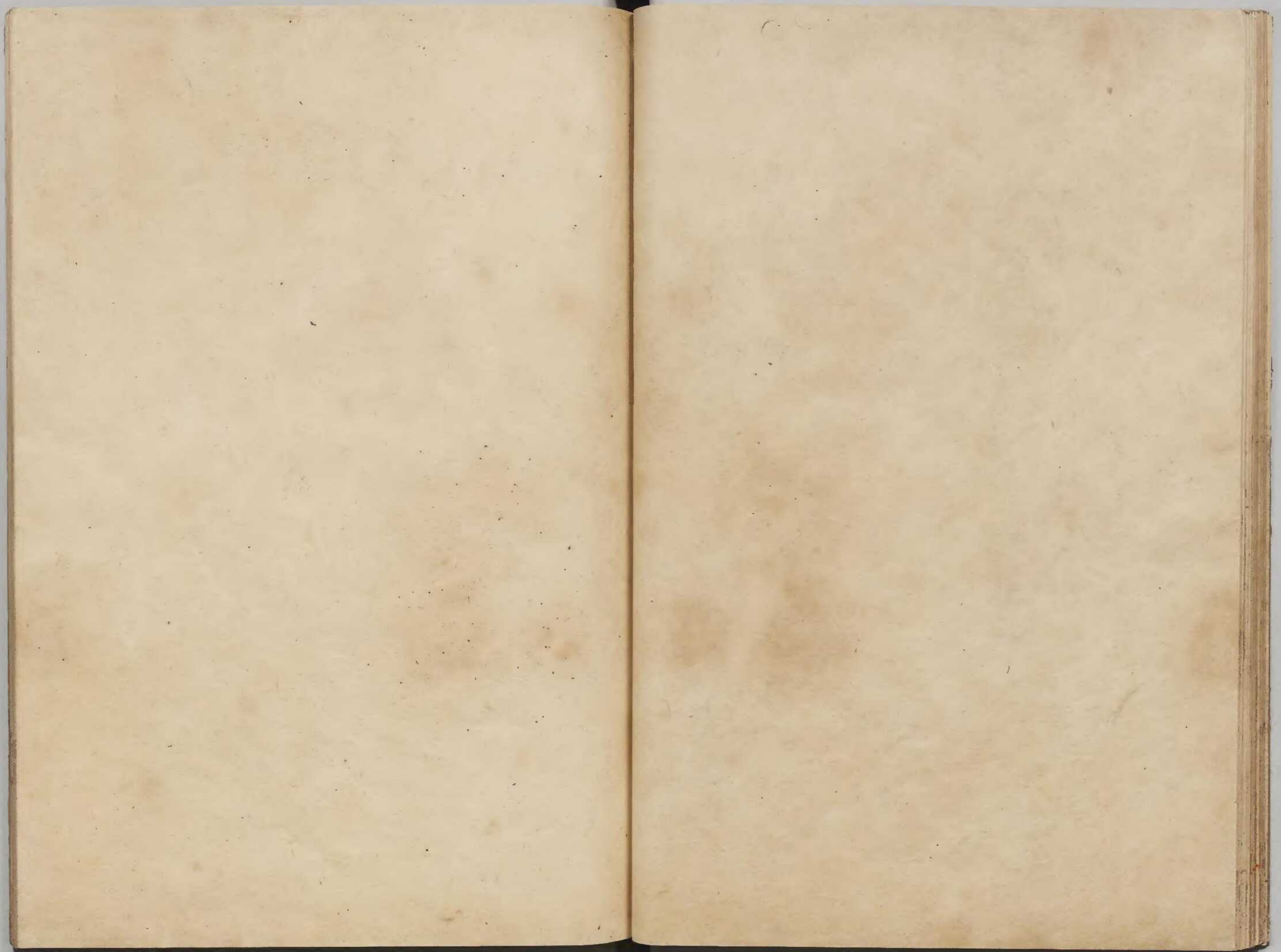
平右衛門

寛永七年九月廿二日卒六十二歳

頼重

右衛門左衛門

家政凡内一嶋酸草



某 たれ

三卷 さんまき

● 賴重 らいじゅう

修理 しゆり
更 まへ

小川 こがわ

重次 しんじ

世に安ん

重勝 しんじょう

九郎右衛門

家紋一文字尾長 いざな

菅波

● 重次

采女正 清名永ら 甘國常列

依行我重き び小義家 清く忠節

あふまらむく 庫侍あふあは

重勝

出雲守 生國回
元和八年 病死 法名 道華

重後

修長

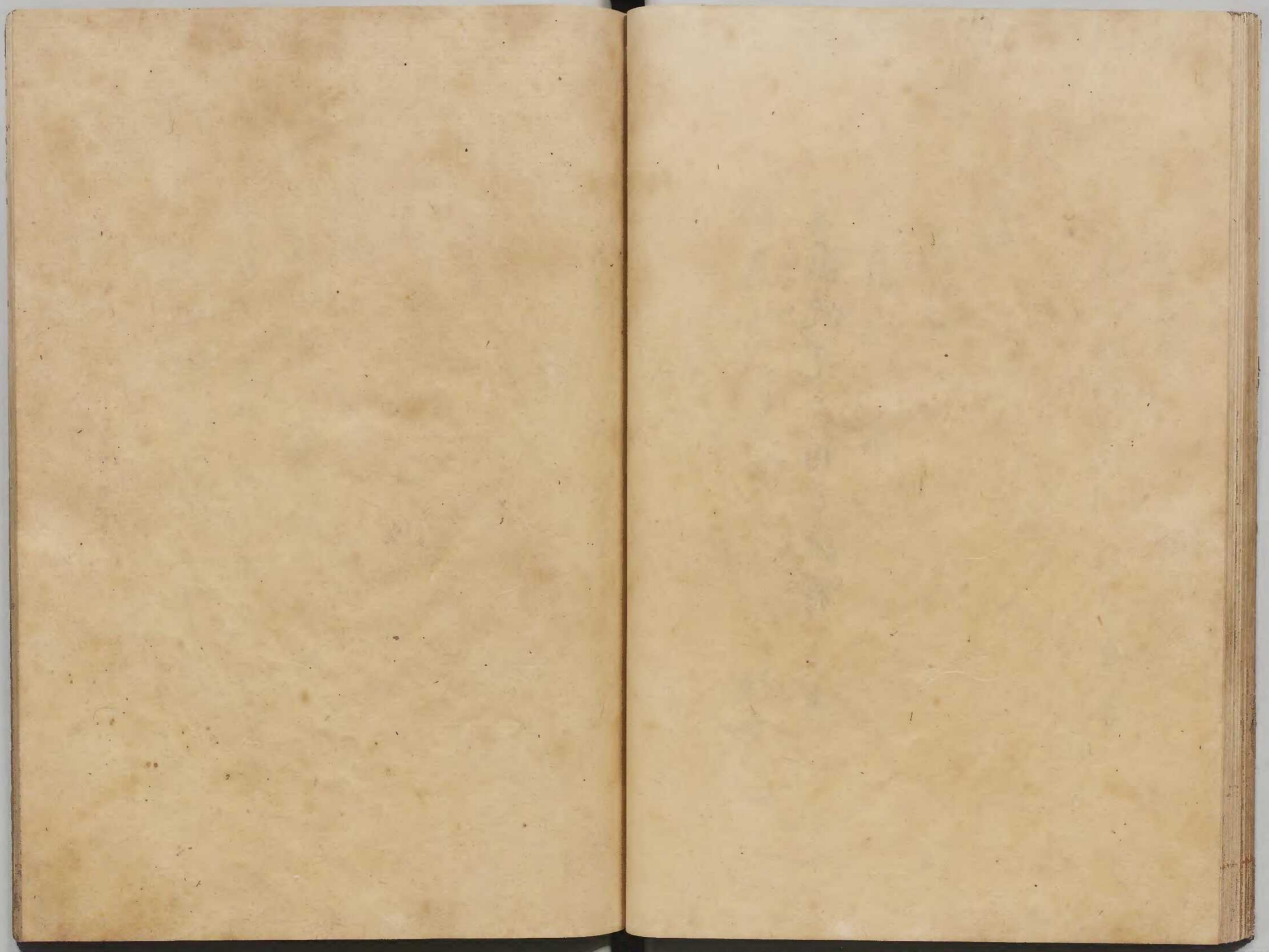
寛永元年

台法院殿

將軍殿

毒

家紋 丸乃内ノ地蔵



原

● 某

孫 号 末

中 國 信 列

信 列 岩 村 田 大 炊 助 一 つ ら ち ゃ ら
氏 田 信 玄 勝 頼 父 子 小 治 一

長 正

唐太史 生國同家

小茶氏貞一 子時

東照大権現甲州新府へ入清の

信州の 氏貞 子時

修理左衛門康貞 信州佐久郡見澤

乃山 山屋 子時

大権現 沙書と康貞 子時

清本方 子時

乃山 子時 岩村田代軍 子時

小茶氏貞 子時 岩米垣將等

を 子時 小茶氏貞 子時 合戦の

見れ 子時 岩村田代城を

致火 子時 氏貞 子時

通 子時 康貞 子時

子時 信州

大権現乃沙籍 子時 岩村田代城を

等 子時 康貞 子時

慶長二年

大権現乃侍守一國が原より守りて
寛永三年七月死す、十八日追善心

正重

右共忠 生國同前

右酒院殿よりついでに侍りし

右坂東殿乃侍陣小供奉

寛永七年八月死す、享年六十

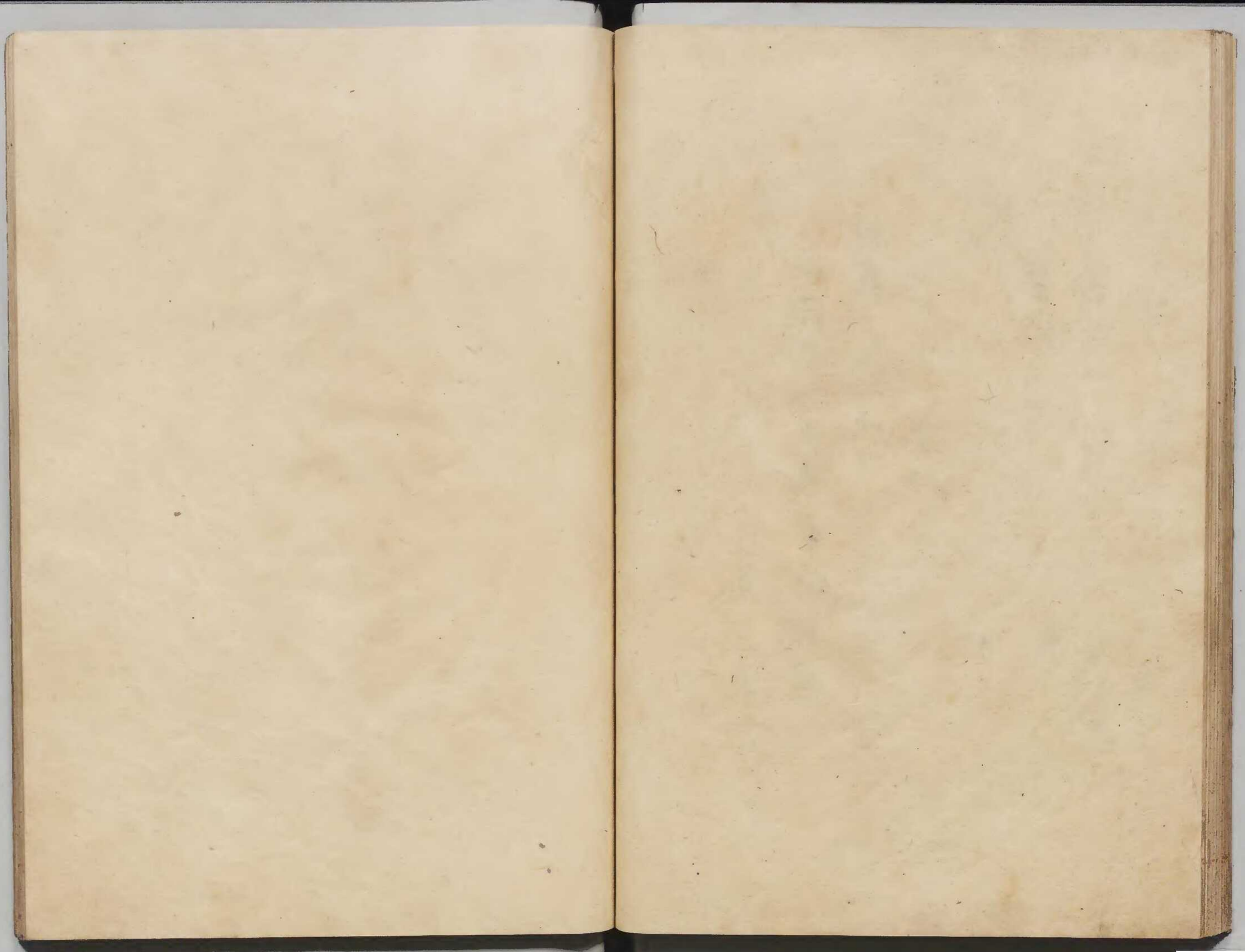
浄雲

正久

右共忠 生國同前

將軍家一侍りし

家紋九曜



● 高久

高付

内務

生園

信州

信州 岩村田 古所 小島 大炊 小島

小島 乃 氏 田 信 志 小 勝 頼

↑ 3

久利

六右衛門 生園 同家

小糸氏直

東照大権現 甲州新府 清盛乃 少子信

乃軍士 色あろろ 氏直 通

上芦原 信州 信之 郡 足澤 山乃

小原 乃軍士 色あろろ 氏直 通

大権現 乃清盛方 乃少子信

書と芦田 小下 乃若田 乃少子信 約命

小原 乃軍士 色あろろ 氏直 通

すこ乃ゆつ 岩村 田の者 乃少子信

乃少子信 乃若田 乃少子信

乃少子信 乃若田 乃少子信

乃少子信 乃若田 乃少子信

乃少子信 乃若田 乃少子信

乃少子信 乃若田 乃少子信

乃少子信 乃若田 乃少子信

不承也

是古也

大権現 ノノ 寺之 ノ 國原此御

陣 ノ 供奉す

寛永十二年九月病歿 ノ 時 ノ 年五十五歳

法名常金

台誌

表名表 生國同列

台徳院殿 ノ 行 ノ 寺 ノ 列 ノ 家

大坂 ノ 寺 ノ 傳 ノ 寺 ノ 供奉す

元和九年五月病歿 ノ 時 ノ 年五十五歳 ノ 法名常真

忠次

忠名表 生國同列

台徳院殿

將軍 ノ 寺 ノ 行 ノ 寺 ノ 列 ノ 家

家紋
蜂丸

小田切

●昌成

主
出陣
信房
信虎
信成

昌吉

大陽守

生島同前

信玄勝頼父子一ツツク度此合戦
軍功一ツツケ事二十一度あり

云正十年甲別清入國乃キ

大権現一ツツカハツツク

同十八年小田原清陣乃キ

大権現乃キ一ツツカ昌台信別岩村具

味一ツツク

同十年東清入此後昌台 約命一

一ツツク西乃凡清者一ツツク

大権現方下ツ統乃キ清野乃系是
幸長甲別をア一ツツカ此別を以テ
一ツツク昌台

大権現此合を一ツツケ一ツツク甲別一

一ツツク一ツツク一ツツク一ツツク一ツツク

奉行職一ツツク一ツツク一ツツク一ツツク

親者一ツツク一ツツク一ツツク一ツツク

一ツツク一ツツク一ツツク一ツツク

一ツツク一ツツク一ツツク一ツツク

うけとり 本丸乃汚毒とけり
寛長十六年 十歳少く病死

昌次

新島 生國甲州

天正十一年

大権現と稱し 本丸くまのり

文祿元年 高繁陣乃て奉

之和二年

台徳院殿 一はくしん

寛永元年

將軍の御

昌直

庄屋 生國同前

寛長十八年

大権現と稱し 本丸くまのり 本丸乃汚毒とけり

之和二年

台酒信敵一ほくくくくく
同五年二十歳あり病死

昌使

甚くゆ

生國武所

實は長谷川藤右衛門のり昌使

ありす

寛永五年

將軍あり

昌勝

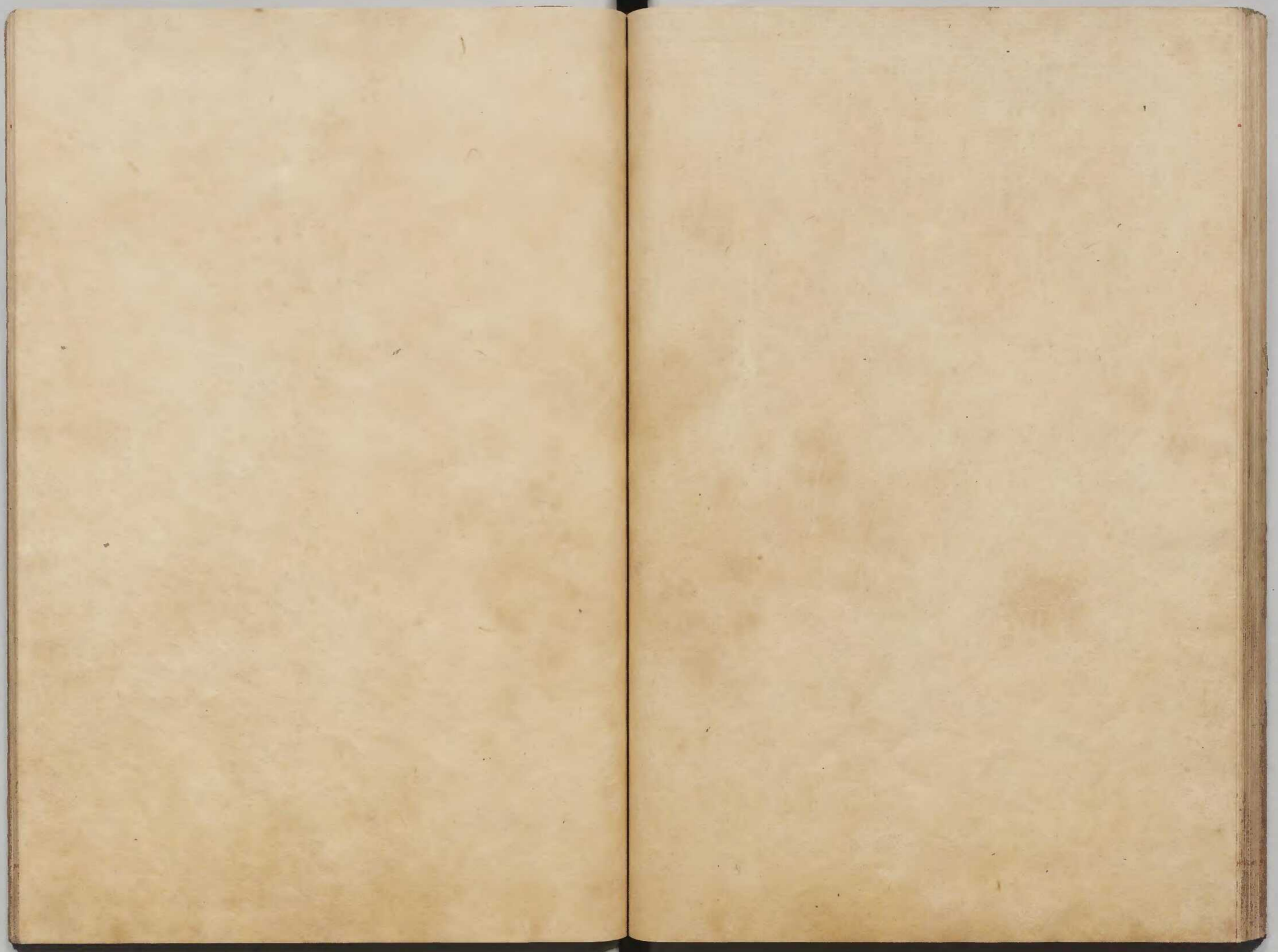
彦七郎

生國回前

寛永十二年

將軍あり

家紋丸内二列



小田切

● 某

善所
武田信玄

光季

七

勝頼

天正十年長原合戦乃時討死 法名宗春

宗春

長原 生國甲別

天正十年年元月十六歳甲辰生國

没後乃後

大権現ノ御

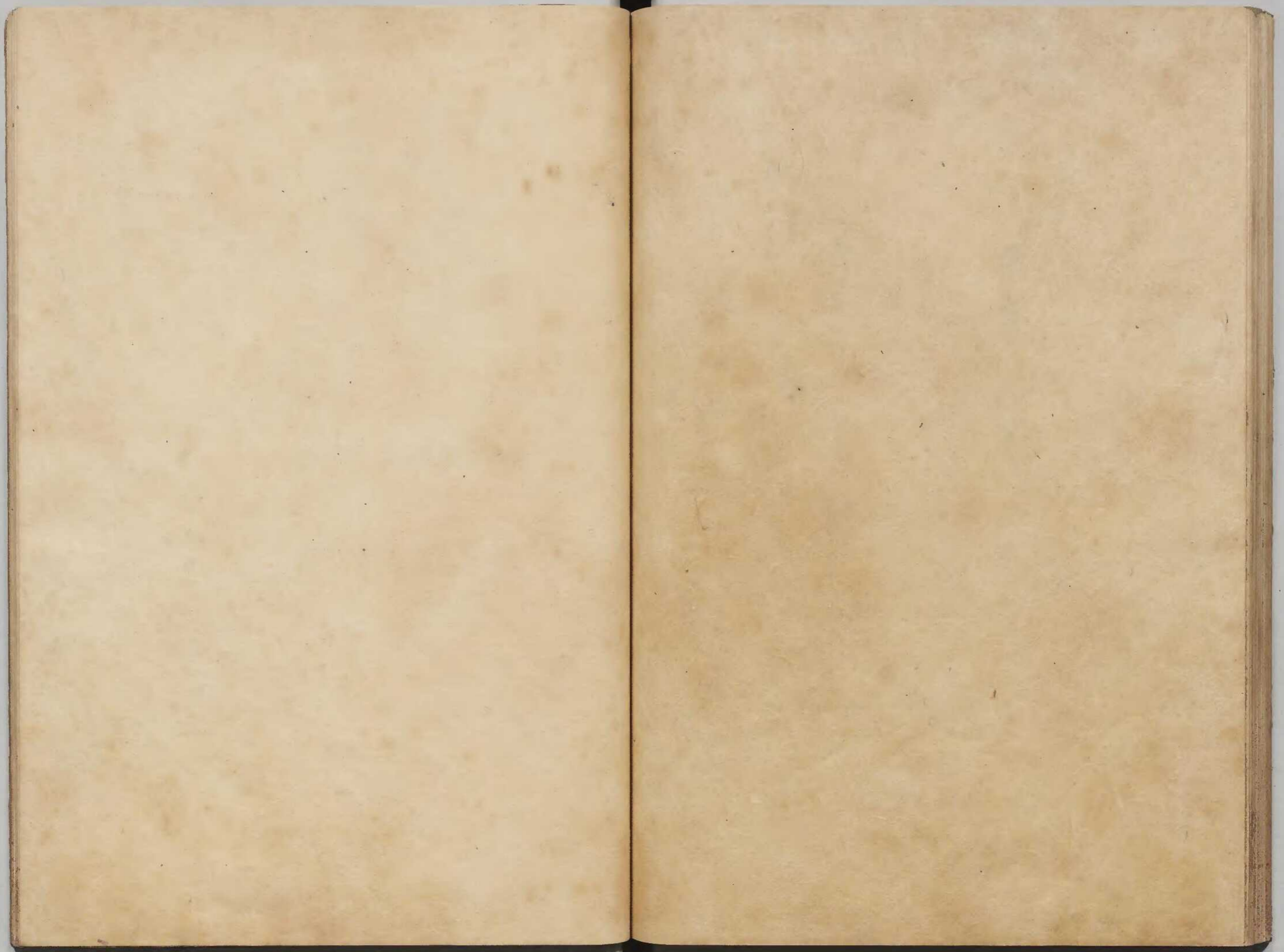
天正九年八月二十六日病死 法名

宗春

宗春

長原 生國駿別

家紋二列



市屋

● 忠告

与那志の射

生國信刀

氏田信玄

属す

天正十六年駿府小田原

大権現と稱揚す

同十八年小田原陣

約余小

信州下伊奈飯田城乃番と爲し
其後同東清入國乃て其未地とたま
ふに敵守乃清番と作つてらぬ
慶長五年七月に於て其未地とたま
六十四歳に於て其清心

忠次

理直忠の尉 甘國因の
父忠吉と同時

大権現と稱して其の事

天正十八年小田原陣乃て其侍
同年同東清入國の侍なり其別乃
府中よにわく未地とたまはら大清
番此組とあり

同十九年

大権現と稱して其の事
其侍なり其別乃
其侍なり其別乃

台渡防敵馬田清陣乃も侍奉し清渡
陣此後分分京よりく或別府中
乃領地を有しし信別下任念ふく
米地とたまはる是先祖此田領る
ふりつくりするらかの地小にあり
根本をのりしりは場つけられ
之和えの大坂清陣のとき侍奉
しし命ありし忠次信別共士等
こりれし投方此清番とつし其後

將軍家（一）（一）

寛永十六年十二月二十日七十六歳
少く病死 法名道智

定次

多田村 出陣

慶長十二年駿河

大修理（出）

同年

台法院殿後明(清成)...

大権現乃命...

台法院殿小清...

右殿有及乃清陣...

定改

右殿有尉 生島氏...

寛永九年

將軍殿一...

正次

佐美 生國同前

元和元年右殿清陣...

部少補陣...

其首...

小笠原右近...

此事...

同九年

將軍家とありて清書院番と記す
其後大沙番乃紹頭とあり

忠重

檀芳林 生國同前

之和七子

名西修殿

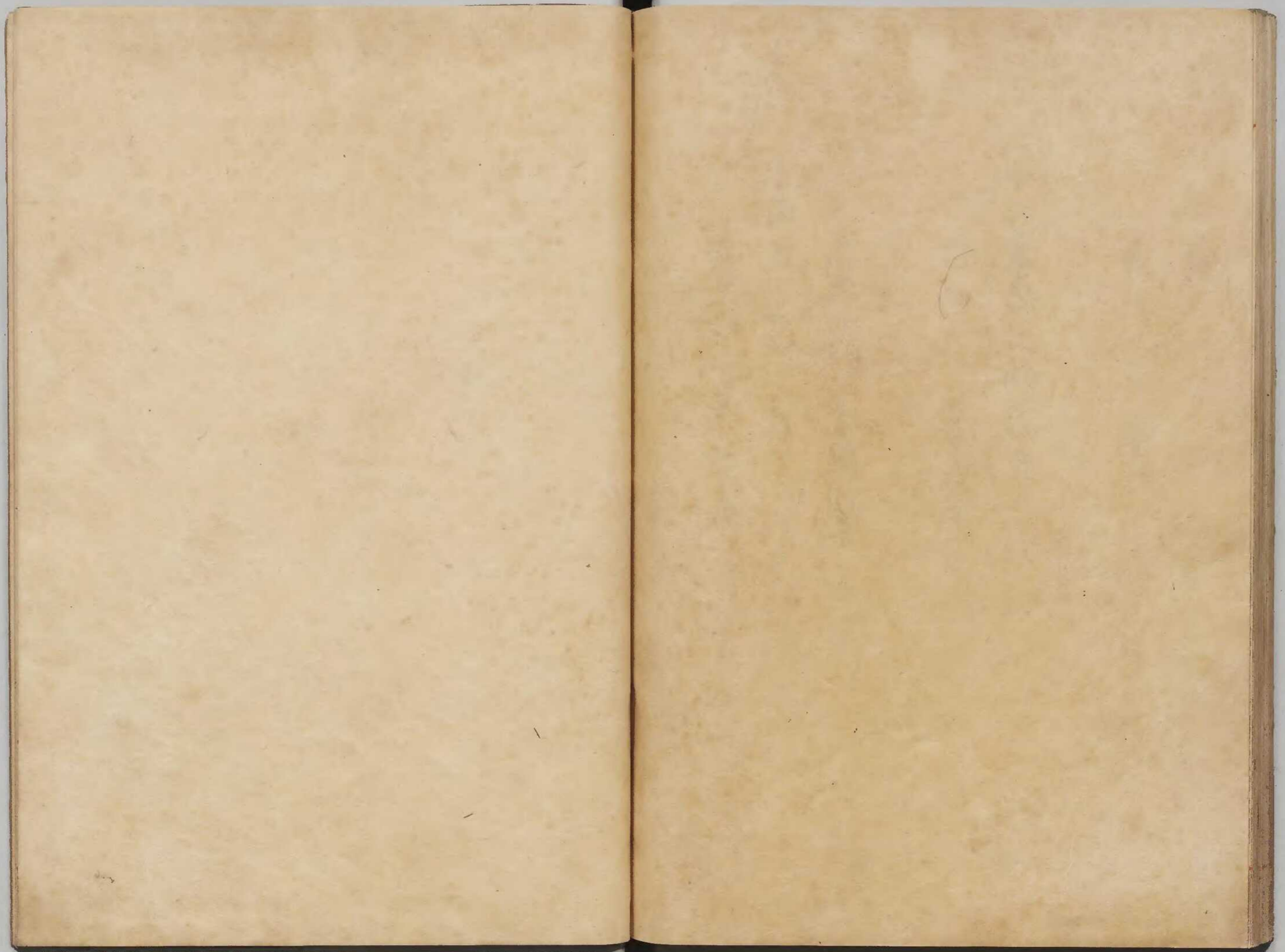
將軍家とありて清書院番と記す

寛永二年二十歳より在るは名全的

清次

新考術 生國同前

家紋二頭左己



蜀国

● 忠久

豊後守

生國

元源院義輝

山城國平内

久次

忠久

崇源院被沙鳩儀の時作事

寛永十二年一月病死年十五

善久

与太史

台徳院殿より行きて沙鳩儀と持て

駿河大納言忠長卿より駿河内

山西横内村堀内より来地

寛永十九年十二月

久尚

將軍御前より申上り甲州乃内と桑井村

宮脇村より領地とす

与太史

元和十年

將軍御前より

寛永元年より大沙書といふ

系久
与太史

家紋丸内二引添紋与羽蝶

